

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 3 月 19 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details for '国指定史跡真壁城跡保存整備事業' and '文化財の保存・活用'.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順. Includes details about the '国指定史跡真壁城跡の保存整備' project.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with 5 columns: ①手段, ②対象, ③意図, ④活動指標, ⑤対象指標, ⑥成果指標. Includes data for '発掘調査面積', '保存整備面積', and '参加人数' over 27-31 years.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing financial and personnel input data for 27-31 years. Columns include 27年度(実績), 28年度(実績), 29年度(計画), 30年度(目標), 31年度(目標), and 期間限定総投入量.

Table showing the breakdown of expenses (事業費の内訳) for 28 and 29 years. Columns include 28年度事業費実績 (千円) and 29年度事業費予算 (千円).

(4) 当該年度の実施内容

Table showing implementation content for 29, 30, and 31 years. Includes details like '保存整備工事実施設計', '発掘調査報告書刊行', and '備品購入費'.

事務事業名	国指定史跡真壁城跡保存整備事業	事務事業No.	30501000896	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

平成6年に真壁城跡が国指定になり、保護・活用を図るため、平成9年度から国庫補助、県費補助を受けて開始。発掘調査が進み、遺跡の状況が把握でき、調査効率が向上している(30~50%費用・労力減)。外曲輪工事が完了に近づき、真壁伝承館歴史資料館での展示の効果で、歴史・観光資源の価値が高まり、雑誌や歴史書籍で取り上げられる機会が増加し、資源価値は確実に向上している。啓発業務では、以前は市外が大半だったが、古道とあわせて案内が人気で、市内参加者も増加傾向にある。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?

歴史公園として早期の公開・活用を望む。
真壁伝承館歴史資料館をはじめ、城下町、古道など周辺の歴史資源と連携した歴史講座や活用事業を増やして欲しい。

(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

改革改善を行う

整備工事が長期間に及んでおり、H8年度及び14年度に策定の基本計画・整備基本設計で定めた短期目標H28年度を目途に、公開活用を主とした計画を執行し、中城の整備も早期に完了させ、公開活用をできるだけ早く進めることが必要。庭園整備の内容は、文化庁、関係機関と再調整を行う。啓発業務では市民参加を増やし、案内や管理ボランティアなどを育成することが課題。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	真壁城跡の保護と活用に繋がり、桜川市の魅力を高める。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	国指定の市有財産であり、歴史景観をわかりやすく復元して価値を高め、茨城県を代表する城郭遺跡として、最大限活用する必要がある。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	発掘調査区の設定や工事の手法を多様な視点から検討し、効率化と最大限の効果がはかれるように活用している。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	公開・活用ができなくなり城跡の価値が生かせなくなる
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	類似事業は無い
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	必要最小限で行っている
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	市の財産である

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																		
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	中城地区は当初未整備のままとする予定であったが、平成26年度に整備推進方針を決定し、平成27年度整備基本設計を策定した。そのため、中城庭園を中心とした発掘、整備設計、工事等を計画しているが急な方針転換であったため、人手不足、時間不足のなかでなんとか対応し、当初計画よりも1年前倒して工事着手できる見込みとなった。																		
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr><th></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr><th rowspan="3">成果</th><td>向上</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>維持</td><td></td><td>×</td></tr> <tr><td>低下</td><td></td><td>×</td></tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下		×
コスト																				
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下		×																	
事業全体に影響が大きいのがインシシによる獣害で、発掘地や工事予定地を荒らし、防護ネット設置等に労力が必要となり、深刻度を増している。この点を鉄柵の設置で改善し、全体の進捗をはかる。人手と時間の不足については、業務に集中できる環境をつくり、人手も増員して対応する計画である。		(6) 事務事業優先度評価結果																		
		成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																		

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>